

NPO パートナーシップ協力プログラム 事業終了報告書

団体名 根浜ハマナスプロジェクト実行委員会

代表者名 岩崎 昭子

1. 事業名

ハマナス再生プロジェクト「根浜ハマナスプロジェクト」(岩手県釜石市)

2. 事業カテゴリー

CF 事業枠

2. 事業期間

2021年4月1日 ～ 2022年5月31日 (395日間)

4. 契約金額

7,061,450円

5. 担当者名

細江 絵梨

6. 事業目的

本地域に自生し釜石の象徴花でもある「ハマナス」を増殖させる活動を行うことであらゆる生物が、生きいきと命を輝かせる希望の地を目指す。また必要なエネルギーを地域資源から生み出す検討を行うなど、より深く「自然と共に生きる、根浜らしい持続可能な地域づくり」を住民主体となり官民学とともに思考し、長期計画の1年目として実行する。

7. 事業の成果

- 生態系を脅かさないでハマナスを再生する準備ができた。
- 本事業を通して以下に記載の通り、ハマナスの取り扱いに係る留意事項及び地域づくりの一助となるランドデザインを明確にできた。
- 植樹祭にあたっては想像以上の地域住民の参加があり、根浜町内会だけでなく近隣住民からも期待が高いことが分かった。
- 商品加工に向けたハマナスの実の採取時期を学習するなど、ノウハウを得た。
- これらにより、関係者が協力し合う意識・体制が醸成された。

8. 事業種別(コンポーネント)ごとの成果

(1) コンポーネント①

1) 種まき実施(5月1日)

どのような場所にハマナスを植えたら良いかなど、今後に活かせる学びを得られた。

- 蒔いた種の数：1プランター80～100個くらい×6プランター（発芽率2割）
- 植生した挿し木の数：96本（成長確率5%未満）
- 参加者：地域の小中学生、海浜林再生プロジェクトメンバー 述べ20名

2) ランドスケープデザインワークショップ（6月5日）

グラウンドデザインを描く上で基礎となるスケッチが出来上がった。また、自生するハマナスが順調に生育していることを確認した。

- 参加者：地域の小中学生、海浜林再生プロジェクトメンバー 述べ20名

3) 地域と協働し海岸清掃の実施（7月17日）

清掃により環境整備を行うことができ、さらに地域に自生する海浜植物についての学びを得られた。

- 参加者：釜石東中学校 海浜林再生プロジェクトメンバー 地域住民 述べ40人

(2) コンポーネント②

1) ハマナス「育てる」DAY（3月29日）

植樹祭に向けたイベントとして、地域の廃材を活用したプランター作りワークショップを開催。地域の子どもが参加し、愛着の醸成につながった。

- 参加者：地域の小中学生とその家族 述べ20名

(3) コンポーネント③

1) 種の採取（8月～9月）

根浜海岸に自生するハマナスから実を採り、手作業で種を採取した。また植樹祭時の来場者プレゼントとして検討していたジャムの試作を専門家へ依頼し行ったところ、商品化にあたっては実の収穫時期を早めた方が良いという検討結果となった。

- 地域の小学生、実行委員メンバー 述べ30人
- 採取した種数：16,600個

2) 井戸掘り（11月～4月）

グラウンドデザインや土壌改良の土地検討と並行して、井戸の場所を地域住民及び土地所有者、専門家と共に検討を重ね、4)一②に記載の土地の西側に地下30メートル、電動汲み上げと手動汲み上げの2パターンを設置した。

- 参加者：根浜町内会、岩手県立大学、環境パートナーシップいわて、市役所、地域の工事業者他 述べ25名

3) 土壌改良（10月～3月）

グラウンドデザイン及び井戸の場所と並行して、土壌改良する場所とその方法について検討を重ね、使用する土地を以下の通り決定した。

① 植樹する土地

苗木を植生する場所として、海に近い畑（ハマボウフウを育てている）に植樹する。

土地サイズ：10×5メートル

② プランター設置及び堆肥づくりを行う場所

種まきしたプランターは、丁寧な水やりと強風を受けないことが重要となるため、山側の土地を利用する。同じ場所で、刈った草を活用した堆肥をつくることのできるよう、整備をした。

土地サイズ：20×20メートル

- 参加者：根浜町内会、岩手県立大学、環境パートナーシップいわて、市役所他 述べ20名

(4) コンポーネント④

1) 植樹祭の実施（4月16日）

9. 事業全体を通じて得た教訓や課題等

- 震災前は海岸沿いに自生していたハマナスだが、被災し砂が減少した根浜海岸では、種や苗の状態で見失われてしまうことから海沿いに自生させることが困難であることが明確になった。
- 繁殖率は高いため、植物の多様性を損なわないためにも、計画的な植生が重要であることが分かった。
- 被災地である根浜地域では、震災後に土地の所有が個人・行政と様々となっており、用地交渉に時間を要する。
- 効率的な実の採取時期が判明し、同時に種の掻き出しが非常に難儀であることも分かった。
- 上記より、ハマナスを増殖させ共生するための課題が本事業により明確となった。
- 今後は、ハマナスを植生していく場所を関係者ととも丁寧な協議を行い、少しずつでも拡大したいと考えている。
- また、ハマナスの世話に加え、商品化に関しても長期的視野を持って関係者や専門家と協議し、試作を行う予定である。

10. 協力体制の構築

本事業の実施により、新たな協力者（合同会社ナチュラルファーム）があっただけでなく、ハマナスの取り扱い留意事項が明確になったことで、地域住民やレストハウスを管理する株式会社かまいし DMC との一層の協力関係も構築できた。また以前より連携している岩手県立大学及び環境パートナーシップいわてとの関係性も強くなり、関連事業への好影響が見込まれる。

11. Civic Force との協働について

コロナ禍でありながら、釜石までお越しいただき制作くださった動画は、関係者及び地域住民が感動しただけでなく、本活動を今後広報していくにあたり重要なツールとなる。CivicForce との協働だからこそ実現した事業であり、今後も見守って頂きたい。